# 3-1　動物

## 3-1-1 哺乳類

現在までに確認されている重要種（哺乳類）

| 科名 | 種類名 | 確認状況 (S57) | 確認状況(H11～13･H15) 湛水域内 | 確認状況(H11～13･H15) 湛水域外 | 文化財保護法 | 種の保存法 | 環 RDB 2002 | 北 RDB 2001 | 生態等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| イタチ | エゾクロテン | ●<br>位置不明 | ● | ● | | | DD | | クロテン（*Martes zibellina*）の北海道および千島産亜種。北海道では森林地帯に広く分布しており、樹上で活動し、小型脊椎動物、昆虫類、果実などをおもに採食している。 |

※「●」：個体確認（痕跡確認）されている種を示す。

現在までに確認されている重要種（哺乳類（コウモリ類））

| 科名 | 種名 | 確認状況 (S57) | 確認状況(H15) 湛水域内 | 確認状況(H15) 湛水域外 | 文化財保護法 | 種の保存法 | 環 RDB 2002 | 北 RDB 2001 | 生態等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ヒナコウモリ | *Myotis* sp. | 調査無し | － | ● | | | ※ | ※ | 樹洞をねぐらとするが、家屋を利用することもある。産仔数は 1。 |
| ヒナコウモリ | チチブコウモリ | | － | ● | | | VU | R | ねぐらは樹洞と推測されているが、これまでの発見場所は洞窟や家屋である。産仔数は不明で、北海道では繁殖が確認された。 |
| ヒナコウモリ | ニホンコテングコウモリ | | ● | ● | | | VU | R | ねぐらとしては、樹洞や樹皮の隙間、落ち葉の下、坑道、洞窟、家屋などを利用する。産仔数は 1～2。 |

※「●」：個体確認（捕獲）されている種を示す。

※*Myotis* sp.：ヒメホオヒゲコウモリとホオヒゲコウモリの可能性が考えられる種。重要性のランクは以下の通り。

ヒメホウヒゲコウモリ：EN（環 RDB2002），Vu（北 RDB2001）　／　ホウヒゲコウモリ：VU（環 RDB2002），R（北 RDB2001）

### 3-1-2 鳥類（一般鳥類）

現在までに確認されている重要種（一般鳥類）

| 科名 | 種名 | 確認状況 (S57) | 確認状況(H14・H15)※ 湛水域内 | 確認状況(H14・H15)※ 湛水域外 | 文化財保護法 | 種の保存法 | 環 RDB 2002 | 北 RDB 2001 | 生態等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| カモ | オシドリ | － | － | ● | | | | R | 低地から亜高山帯にかけて広く見られ、繁殖期には、大木の多い広葉樹林内の河川、湖沼に生息する。特にミズナラの多いブナ林、シイ・カシ林などを好む。冬は山間の河川、ダム湖、湖沼、樹林に囲まれた池、溜池などで見られる。 |
| ライチョウ | エゾライチョウ | － | ● | ● | | | DD | R | 低地や低山帯の針広混交林や落葉広葉樹林に生息し、林内でも比較的若い木が多く密なところ、または壮齢林の場合には林床植物が豊富で、所々に伐開地があって更新中の部分などがモザイク状になっている大きな森林が生息適地である。巣は、大木の根元や倒木の陰、下草の茂った中に造る。 |
| シギ | オオジシギ | － | － | ● | | | NT | R | 低地から標高 1400m ぐらいの高原までに現れ、湿原や低木の混じる草原、牧場、農耕地などで繁殖する。ミミズや昆虫などの動物質の餌を地上で採るが、ミズキやガゼクサなどの植物の種子も食べる。 |
| ヨタカ | ヨタカ | － | ● | ● | | | | R | 本州中部では標高 500～1500m ぐらいに多いが、東北地方では低山帯、北海道では平地から山麓部に多い。生息環境は草原や潅木が散在する落葉広葉樹やマツなどの針葉樹の林で、地面が乾いた明るい林を好む。 |
| キツツキ | クマゲラ | ●<br>位置不明 | － | ● | 天然 | | VU | Vu | 枯死木の株や倒木で、主にアリ類の幼虫・成虫あるいは蛹も食べる。他に甲虫の幼虫も食べる。単独でいることが多く、300～600ha の広いなわばりをもって分散する。 |
| キツツキ | オオアカゲラ | － | ● | ● | | | | N | 低山帯、亜高山帯の樹林に生息する。大木の多い常緑広葉樹林、落葉広葉樹林、針広混交林で見られるが、原生林や自然木の多い森林地帯に多く、二次林や造林地にはあまり現れない。特に巨大な枯死木や倒木のある林を好む。 |

※「●」：個体確認されている種を示す。

### 3-1-3　鳥類（猛禽類）

現在までに確認されている重要種（猛禽類）

| 科名 | 種名 | 確認状況 H11～H15※ | 文化財保護法 | 種の保存法 | 環 RDB 2002 | 北 RDB 2001 | 生態等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| タカ | ミサゴ | 繁殖地なし | | | NT | Vu | 繁殖期は 4～7 月、年に 1 回、一夫一妻で繁殖する。採餌環境に近い海岸の岩棚や河川および湖沼沿いの林に営巣し、巣は岩の上や樹頂などに造る場合が多い。 |
| タカ | ハチクマ | 繁殖不明 | | | NT | R | 北海道では 5 月に渡来し、5 月中は繁殖地を求めて移動する。6 月上旬頃に産卵し、8 月中旬頃に巣立ちする。8 月下旬から渡りが始まり、9 月いっぱいまで続く。繁殖前後の渡り時には比較的目にする機会は多いが、繁殖期は目撃率が極めて低い。本種独特のディスプレーは、営巣地上空の空域で行われることがほとんどである。 |
| タカ | オジロワシ | 繁殖地なし | 天然 | 希少 | EN | En | 北海道の繁殖地では 1 月から繁殖活動が始まるが、活発になるのは 3 月からである。3 月下旬には産卵し、6 月下旬から 8 月上旬に巣立つ。巣立ち後も、しばらくの間幼鳥は餌を親鳥に依存して生活し、独立していく。繁殖期の採餌環境は越冬期と同様で、営巣環境としては採餌場所に近い森林が利用される。ミズナラ、ダケカンバ、トドマツ、エゾマツなどに巨大な巣を造る。 |
| タカ | オオワシ | 繁殖地なし | 天然 | 希少 | VU | En | ロシアの極東地方で繁殖し、多くは 10 月下旬から 11 月初めにサハリン経由で宗谷岬に大群で渡り、11 月上旬から中旬には斜里周辺を通過して知床岬方向へ向かう。越冬地では河川周辺でサケ科魚類を主な食料としているが、海岸や山林の哺乳類の死骸なども食べる。2 月には越冬数がピークに達する。 |
| タカ | オオタカ | 湛水域外<br>営巣地あり | | 希少 | VU | Vu | 北海道では平地から低山が主要な生息域となっており、平地では基幹防風林や孤立林などで繁殖する。営巣環境はカラマツやトドマツなどの壮齢～老齢な針葉樹林、針広混交林、また落葉広葉樹林や河畔林も利用されることがある。行動圏には林地や畑、水田、採草地などの農耕地、防風林など様々な環境がモザイク状に含まれ、その面積はおよそ 1000～2000ha と広い。餌は主に鳥類で、スズメ大の小鳥からハト大の中型鳥類、カラス類まで利用し、エゾリスやネズミ類などの哺乳類も利用する。 |
| タカ | ハイタカ | 湛水域外<br>営巣地あり | | | NT | Vu | 北海道では平地から低山が主要な生息域となっており、平地では基幹防風林や孤立林などで繁殖する。ハンティングは林内や林縁などで行われ、餌としてはカワラヒワやスズメなどの小鳥類、ツグミ類やセキレイ類、またハト類も利用することがある。 |
| タカ | クマタカ | 湛水域外<br>営巣地あり | | 希少 | EN | En | 北海道では渡島半島、後志・石狩・胆振地方の山地、夕張山地、増毛山地、日高山系、大雪山系、白糠丘陵、阿寒、足寄、知床半島、天塩山系で生息が確認されている。主要な生息環境は低山帯から亜高山帯で、谷や沢が複雑に入り込み、非常に急峻な地形に成立する森林地帯である。餌はヘビ類、エゾライチョウ、カケス、エゾモモンガ、エゾリス、エゾユキウサギなど多様な種を利用する。行動圏は、北海道で公表されたデータはないが、一般的におよそ 20km$^2$であるといわれている。 |
| タカ | ハイイロチュウヒ | 繁殖地なし | | | | R | 主な餌は各生息地でとれる小型哺乳類、鳥類などで、両生・爬虫類や屍肉も食べる。 |
| タカ | チュウヒ | 繁殖地なし | | | VU | Vu | 生息環境は湿地や干拓地、草地、あるいは河川敷にあるヨシ原で、その中に枯れたヨシやススキの茎、ササの茎などを積み重ねて地上に巣を造る。巣は 1 シーズンしか利用しないといわれている。餌は生息環境であるヨシ原や草地などで捕獲できるあらゆる小動物を利用する。その中でもネズミ類の割合が最も多く、次いで鳥類が多い。両生・爬虫類や昆虫類も食べる。 |
| ハヤブサ | ハヤブサ | 湛水域外<br>営巣地あり | | 希少 | VU | Vu | ハヤブサのハンティングは、断崖地形とそれに隣接する広いオープンエリアを利用して行われ、最も多いのが急降下による襲撃である。主な餌は鳥類で、ウミネコ、カモメ類、ウミスズメ類などの海鳥類、ドバトやレースバトなどのハト類、カラス類など様々な種を捕食する。 |

※確認状況（H11～H15）は確認されたつがいの営巣地を示す。

### 3-1-4　両生類・爬虫類

現在までに確認されている重要種（両生類・爬虫類）

| 科名 | 種名 | 確認状況 (S57) | 確認状況(H12･H15) 湛水域内 | 確認状況(H12･H15) 湛水域外 | 文化財保護法 | 種の保存法 | 環 RDB 2000 | 北 RDB 2001 | 生態等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| サンショウウオ | エゾサンショウウオ | 調査無し | ● | ● | | | | R | 繁殖期を過ぎると、多くの成体は上陸し産卵池から遠く離れ落ち葉等が堆積する林床へ移動し、ミミズ、ナメクジ、ワラジムシなどを摂餌する。 |

※「●」：個体確認されている種を示す。

## 3-1-5　陸上昆虫類

現在までに確認されている重要種（陸上昆虫類）

| 科名 | 種類名 | 確認状況 (S57) | 確認状況(H13・15) 湛水域内 | 確認状況(H13・15) 湛水域外 | 文化財保護法 | 種の保存法 | 環 RL 2000 | 北 RDB 2001 | 生態等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| アオイトトンボ | オオアオイトトンボ | － | － | ● | | | | R | 平地から丘陵地の周りに木が繁った湖沼に生息する。 |
| トンボ | ヒメリスアカネ | － | － | ● | | | | R | 平地から低山地の森林に囲まれた池沼に生息する。 |
| オサムシ | ヒダカマルクビゴミムシ | － | ● | － | | | | R | 詳細不明。 |
| オサムシ | セスジカタキバゴミムシ | － | － | ● | | | | R | 詳細不明。 |
| ゲンゴロウ | ゲンゴロウ | － | － | ● | | | NT | R | ヒルムシロ、オモダカなどの水生植物の生えた池沼や放棄水田、湿地に生息する。 |
| ミズスマシ | ミズスマシ | － | － | ● | | | | R | 全国の池沼、川などの静かな流れにすむ。 |
| コガネムシ | ダイコクコガネ | ●豊糠 | － | － | | | NT | R | 山地の獣糞に見られる。 |
| カミキリムシ | ケマダラカミキリ | － | － | ● | | | NT | N | ヨモギやハンゴンソウ、オオハナウドの葉や茎に見られる。 |
| ヒゲナガゾウムシ | シロヒゲナガゾウムシ | － | ● | － | | | | R | 山路に積まれた薪などに来集する。 |
| クサアブ | ネグロクサアブ | － | － | ● | | | DD | | 詳細不明。 |
| ハナアブ | ジョウザンナガハナアブ | － | － | ● | | | | R | 詳細不明。 |
| ハナアブ | フタオビアリスアブ | － | － | ● | | | | R | 北海道、四国に分布する。体長 14～15㎜。詳細不明。 |
| イエバエ | キバネクロバエ | － | － | ● | | | | R | 成虫は渓流の付近に多くみられ、フキの葉上にとまることが多い。 |
| クロバエ | エゾクロバエ | － | － | ● | | | | R | 渓流付近や山路の葉上に見られる。 |
| ニクバエ | シロガネニクバエ | － | － | ● | | | | R | 山地の林道沿いの葉上にみられる。 |
| ニクバエ | エダガタニクバエ | － | － | ● | | | | R | 詳細不明。 |
| セセリチョウ | ギンイチモンジセセリ | － | － | ● | | | NT | N | 林道沿い、林縁、林内の空地、伐採跡地、山間の道沿いや土手、堤防やダムの周辺、河川敷、鉄道線路沿い、送電線の下などの食草の目立つ日当たりのよい草原に生息している。ススキを主体とした乾燥草原に棲息する。 |
| アゲハチョウ | ヒメギフチョウ | ●<br>位置不明 | － | － | | | NT | R※ | 道南を除く広い地域に分布している。丘陵地から低山地にかけて普通に見られる。北海道ではオクエゾサイシンに産卵する。 |
| ジャノメチョウ | ツマジロウラジャノメ | ●<br>幌尻林道 | － | － | | | | R※ | 道内では占冠村、夕張岳、芦別岳や日高山脈周辺の一部に生息地が知られる。谷筋に生息するため独立した個体群が多い。 |

注）1「●」：個体確認されている種を示す。　　2　R※：北海道亜種を示す。

### 3-1-6　魚類

現在までに確認されている重要種（魚類）

| 科　名 | 種　名 | 確認状況(S57) | 確認状況(H13･H15) 湛水域内 | 確認状況(H13･H15) 湛水域外 | 文化財保護法 | 種の保存法 | 環 RDB 2003 | 北 RDB 2001 | 生態等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ヤツメウナギ | シベリアヤツメ | － | － | ● | | | NT | R | アンモシーテス幼生は泥中に生活し、珪藻類を主とした植物プランクトンやデトリタスを摂餌する。夏の終わりから秋にかけて変態するが、カワヤツメと違って変態直後の若魚でも消化管は糸状で摂餌行動は取らない。変態までにかかる時間は不明であるが、数年を要するといわれている。変体後も降海せず、河川で越冬し翌年に産卵する。産卵後は雌雄ともに死亡する。 |
| サケ | ヤマメ | ●<br>宿主別川<br>額平川<br>(上流)<br>詳細位置<br>等不明 | ● | ● | | | | N | 降海型と河川残留型の個体が存在する。河川残留型は、河川勾配が比較的急で大きな転石や岩盤で構成された瀬と淵が連続する箇所に生息し、陸上昆虫類や水生昆虫類をはじめ甲殻類や小魚などを摂餌する。降海型は、孵化後の翌年3～6月にスモルト化(銀毛化)して海へ降り約1年間の海洋生活を送った後、5～6月に未熟な状態で河川を遡上する。遡上後、産卵期迄の約4ヵ月間は本流や大きな支流の深みで摂餌行動を取らず成熟が進むのを待つ。海洋では主に動物プランクトンや小魚を摂餌する。 |
| コイ | エゾウグイ | － | ● | ● | | | | N | 北海道では河川の全域に生息するものの、降海しない。急流を避け、中流域など比較的流れの緩やかな区間に多く生息し、底層付近を遊泳する。雑食性であるものの、底層で採餌することが多い。 |
| カジカ | ハナカジカ | － | － | ● | | | | N | エゾハナカジカと共存する河川では、その生息域よりも上流部にあたる中・上流域の平瀬の石礫底や蛇行型の淵に多く生息する。単独で生息する場合は、下流域まで生息する。肉食性かつ貪食で、石に付着する水生昆虫類をはじめ流下昆虫、小型底生動物、小魚、サケ卵などを摂餌する。 |

※「●」：個体確認されている種を示す。

### 3-1-7　底生動物

現在までに確認されている重要種（底生動物）

| 科　名 | 種　名 | 確認状況 (S57) | 確認状況 (H13・H15) | | 文化財 保護法 | 種の 保存法 | 環 RL 2000 | 北 RDB 2001 | 生態等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 湛水域内 | 湛水域外 | | | | | |
| モノアラガイ | モノアラガイ | － | － | ● | | | NT | | 池沼水田などの水草に付着。夏季はゼラチン質の紐状の卵塊を水草などの上に産む。 |
| ムカシトンボ | ムカシトンボ | － | － | ● | | | | N | 成虫は林内や樹上に静止しており、未熟成虫は林間を速く飛び捕食する。成熟雄は川の上で雌探飛翔し、雌はフキや苔などの植物の組織内に産卵する。 |

※「●」：個体確認されている種を示す。